

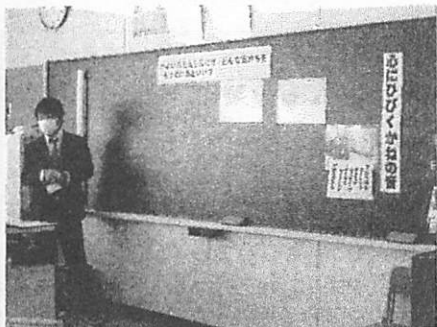
# 桜小道徳だより



令和2年度 NO.3

桜小 道徳実践部

12月23日 発行



3年生は、物事の善悪の判断について、頭では理解していても、行為で表すことが難しい段階です。

まわりに流されたり、自分の弱さに負けたりしない気持ちが必要と考えていた子どもたち。

普段の学校生活で、自分が正しいと判断したことは自信をもって行い、正しくないとは判断したことは行わないようにする気持ちを持ち続けてほしいです。

～各学年の実践～ 3年生の授業をお知らせします。

【教材】「心にひびくかねの音」(3年生)

【テーマ】善悪の判断、自律、自由と責任

【あらすじ】

アルベルトは友だちに「小鳥をうちに行こう」と誘われ、気が進まなかったが出かけ、パチンコでつぐみを狙った。教会の鐘を聞きアルベルトは、大声でつぐみを逃がした。

【ねらい】

間違っていると感じる物事を見過ごさず、よいと思うことを進んで行うための判断力を育てることをねらいとしています。

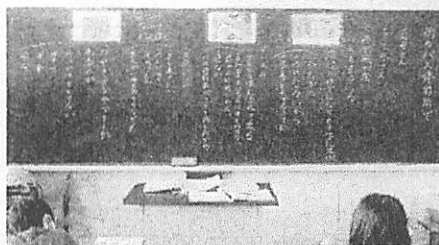
【授業の様子】

良い方を選ぶには、どんな気持ちをもつといいのかについて考えました。気が進まないのに小鳥をうちに出かけたアルベルト「ほんとは行きたくない。」「断ったら悪いな。」「かわいそう。」という気持ちに共感しました。小鳥をうとうとパチンコのゴムをぐいとひきしぼったアルベルトの気持ちを、「これでいい。」「これでいいのか。」に分けて、それぞれの理由を考えました。「みんなと同じようにする。」「断ったら変に思われる。」「命を奪うことは間違っている。」「つぐみが死んでしまう。」など、気づいたことを意見交換し、アルベルトの気持ちの葛藤について話し合いました。子どもたちは、周囲に流されたり、自分の弱さに負けたりせず、自分が正しいと判断したことは自信をもって行いたいという気持ちが表れた授業でした。

児童のワークシートから

○自分が正しいと思ったら、自分の考えだから自分がやらないといけない。友だちにつられずに自分が正しいと思ったらそれをあらわす。

○私はゲームでうざいとか悪口を言っています。友だちは、どんどん口が悪くなって、私に「きもっ」って言いました。良い方をえらぶとき、自分で決める心が大事なのかなと思いました。



高学年に向けて、成長を感じる中、決まりやルールを守ることがより大切になってきました。

決まりやルールは、どうして必要なのか考えた子どもたち。これからの生活で、みんなが気持ちよく生活するために、自分から決まりやマナーを守ってほしいです。

～各学年の実践～ 4年生の授業をお知らせします。

【教材】「雨のバス停留所で」(4年生)

【テーマ】規則の尊重

【あらすじ】

雨の日、ほかの人たちとともに軒下でバスを待っていたよし子さんは、到着したバスに最初に乗ろうとして、お母さんに強い力で引き戻されてしまった。

【ねらい】

きまりやルールは、みんなが気持ちよく生活するためにあることを理解し、進んできまりを守ろうとする態度を養うことをねらいとしています。

【授業の様子】

生活の中になぜ、きまりやマナーがあるのかについて考えました。バスを待つ人たちが、何も言わずに順番に並ぶのはどうしてか意見を出し合い、知らない人たちが、自然にマナーを守っていることに気づきました。到着したバスに最初に乗ろうとするか、軒下に並んでいる順に並ぶか、よし子さんの立場になって考え、意見を交換しました。お母さんの横顔を気にしながらよし子さんは、「順番をぬかしたことが良くなかった。」「次からは、来た順にバスにのるべきだ。」と思ったなど、たくさんの意見が出ました。子どもたちは、きまりやマナーを守っていこうとする気持ちが表れた授業でした。

今までは、さわりだり、みんなが安全にいられるようなことができていなかったのですが、この授業で気づけてよかったです。「めいわくをかけない。」ことが大事ということがわかりました。

私はたまに、決まりやマナーを守れない時があるから、これからは人にめいわくをかけないように、正しいことをしようと思いました。大切なのは、マナーや決まりを守ることだとよくわかりました。

今日の勉強でルールやマナーを守ることが大切だと思いました。今までのことをふり返ってみると、マナーを守っていない人が多いので、一人一人が注意して、マナーを守りたいです。

児童のワークシート

自分では決まりやルールを守っているような気もするけど、もしかしたらルールなどをやぶったりしているかもしれないと思いました。これからは、その場の決まりやルールを守りたいです。